

日本大学 桜樹会会報

第 21 号

昭和62年 6 月

日本大学 桜樹会

目 次

逆柱男のつぶやき	浜田 靖一	1
顧問紹介	門脇 春男	2
第10回ソウル・アジア大会に思う	遠藤 幸雄	3
7年ぶり6度目の全日本インカレ優勝成る	早田 卓次	5
新人類に期待する	菊地 君男	6
決算報告及び会費納入状況（昭和59年度～61年度）		7
私の選手時代	木村 多喜	16
沖縄国体を目前として	椎名 昇	18
1種審判講習会（男子）報告	遠藤 幸一	19
日本大学体操部、今	水島宏一他	20
昭和62年度体操部役員および部員		22
昭和62年度日本大学体操部・日本体操協会予定表		23
競技会成績		24
編集後記		27

逆柱男のつぶやき

浜田靖一

日本では昔から立派な建築物には逆柱（さかばしら）というのを一本入れたらしい。これは「満つれば欠ける」という言葉があるように、あまりにも完全で立派なものをはかえてよくないというので、無理に不完全なものや、他の柱と反対の模様を彫ったものなどを入れて魔よけにしたといういわば呪術的な技術である。そこで私は逆柱的な意味でいつも「桜樹」の中に拙文、駄文を書かせてもらっている。勿論、魔よけにはならないが、間抜けな話でうめ草ぐらいにはなるかも知れないと思うからである。

さて今度の日本大学桜樹会の機関誌である「桜樹」の中には、おそらく来年のソウル・オリンピックの体操競技の動向や試合の展望、成績、有望な海外選手の技、日本代表選手として活躍するであろう桜樹会のメンバーの話などの記事がそれぞれ爛漫と咲きほこることであろう。そこで私は逆柱としてはなばなしくないミッチイムダ話をしたのである。

ムダで馬鹿らしいものの一つに狂歌というのが

— 世の中は澄むと濁るの違いにてフク（福）は得なりフグ（河豚）は毒なり —

— 世の中は澄むと濁るの違いにてハケ（刷毛）に毛がありハゲ（禿）に毛がなし —

前のはいいにしても後の句は私の頭を見て言っているようであまりうれしくない。

わずか点が二つだけでこれだけ違うのであるから一字違うともっと大変である。

マスゲームは私の身近な運動であるが、マネーゲームとなると縁が遠くなる。

マスゲームはお互いに協力し、約束を守って練習しなければならないが、マネーゲームは逆らしい。夏目漱石の「我輩は猫である」にも出てくる。「金を作るにも三角術を使はなくちゃいけないと言ふのさ — 義理をかく、人情をかく、恥をかく、これで三角になる」と、なるほどカクエイなどと



いう金持ちの政治家がいるから昔からカクとカネとはつながりがあったのだろう。また、浜田幸一と浜田靖一も一字しか違わない。前者は政治力もあり、金もあり、ネームバリューもある。後者は色男でもないのに金も力もなかりけりて政治力もないかわりに暴力団とも関係ないパツとしない教師のなれの果てである。ところでそのなれの果ての先生が久しぶりに浅草の寄席に行って来た。物まねの小猫（猫八の子息）がよかった。芸でも独創的なものはいいし強い。歌る多（カルタ）という女性が落語をやった。しかしどうも女性のやる熊さん八さんは雰囲気がないようだ。この人はそ

の後でカッポレを舞ってみせたがこの方がはるかによかった。一葉という人の紙切りはよかった。丁度雨の日だったので三味に合せて傘をさしている女性を切り抜いたがなかなか見事な出来である。次にお客様から御注文を、というので「タイソー」といってやろうと思ったら、前の方から横綱とか土俵入りなど声かとんで私の体操の声は出すヒマがなかった。丁度大ノ国が全勝街道をつっぱしている時だから無理はない。しかしもし一葉さんが体操のウルトラDでも切り抜いてくれたらそれこそ逆柱としては一番よかったと思うのに残念である。

顧 問 紹 介

部長 門 脇 春 男

草皆英二郎（くさかい えいじろう）

大正10年7月秋田生まれ（67才）

伝統的に体操が強かった地方として、島根、新潟、秋田などがあげられる。その一つの秋田県能代市出身である。能代（のしろ）は、日本書紀に“葺代”とよばれ、江戸期には“野代”とある。北海道松前や大阪方面への積出港として栄えた。日本の文化などは港のある、点から点へと出発していることを考えると、体操の強い所も浜田・松江港、新潟港、秋田・能代港などの関連を見逃すことができないだろう。

さて、旧制中学時代の昭和12年明治神宮大会で全国制覇した経験を有し、体操とのかかわりを15才の頃からもち、50才くらいまで鉄棒の車輪など

を行う。

戦後、父親の経営する材木商の事業拡張のため、東京深川に支店を出し、その責任者となる。仕事の傍、好きな体操を日曜日ごとに日大の体育館に来て練習したり、昔話を語ったりした。昭和27年のヘルシンキ・オリンピック大会に、鍋谷鉄巳、小野喬が出場することになり、郷土出身の体操選手のよき相談相手となり、物心両面にわたり力となる。

さらに、遠藤幸雄（ローマ、東京、メキシコ）小野清子（ローマ、東京）、千葉吟子（ローマ、東京）など続々とオリンピック選手や全日本クラスの選手が輩出したこともあり、在京秋田体操会会長として、広範にわたり後輩の相談役となって活躍している。

日大体操部創立の頃は、秋田県出身者が多かったせいもあるが、稲橋、石井、堀田、平川、芳尾、4期の早田、菊地、高田、木村などもよく世話をかけた。こんな関係で桜樹会の会員となり今日に至っている。

昭和58年、(財)日本体操協会より功労賞を贈られる。

後藤清一(ごとう せいいち)

明治39年10月大阪生まれ(81才)

経営の神様といわれている松下幸之助氏(松下電器産業株式会社社長)に師事し、経営界をリードする後藤清一氏(三洋電機株式会社相談役)は少年の頃からスポーツ好きで、剣道、柔道、空手などに熱中する。今から55年ほど前に松下電器の工場長に就任と同時に武道奨励のために創設された“尚武館”の初代館長となり、社員の親睦と心身の鍛練に寄与する。現在、剛柔流空手道誠心館会長、名誉六段、全日本空手道連盟理事、大関朝

潮関西後援会副会長などなどいろいろな役職にある。このように企業人として「モノ」を製作、生産することと体育スポーツを通じて地域社会、実業社会などで明朗な職場環境を創造することに心をくだく。

昭和36年にローマ・オリンピック大会で優勝した日本体操チームを招聘し、三洋電機北条工場の社員やら日ごろからお世話になっている方々に世界一の妙技を披露し、以来、体操とのかかわりあいをもつ。

昭和56年6月、障害者のための甲子園5万人集合運営委員長となり関西財界人の信望を担い、人の心をゆさぶる大仕事を見事に成功させ「障害者への理解」を訴えた。

剛の心と酒落の心を持ち合せている後藤氏は早田監督の奥様(治子さん)の父でもある。

(財)日本体操協会顧問、兵庫県体操協会会長、全日本社会人体操競技連盟名誉会長、全日本ジュニア体操クラブ協議会副会長。

第10回ソウル・アジア大会に思う

顧問 遠藤 幸雄

1986年9月20日から始まった第10回アジア大会に、前回(1982、デリー)に続き体操競技の監督として参加した立場から振り返ってみたい。

出発目前、政治家の発言や空港爆破事件のため、ソウル滞在中は常に日本人意識と気配りを要求されたことは否定できない。もちろん、そのことと競技成績は無関係である。

1. 大会規模

参加国が前回と比べ33か国から27か国に減っているものの、競技種目は復活競技〈ボウリング、フェンシング〉や新競技〈自転車(女)、柔道、漕艇(女)、ライフル射撃(女)、テッコンドウ〉により21から26に増えた。

日本選手団は551名(役員、選手)の大編成だった。その背景にはソウルが近距離にあることと、韓国に対する日本の協力姿勢を示そうとする努力

の結果にちがいない。

2. 開会式

9月20日、午後3時からの開会式は雨に見舞われ、ヘリコプターや熟練した落下傘隊員を使い、精一杯のアピールを試みていたものの効果を十分に発揮できなかった。

日本選手団本部はビニールの簡易雨具を各人に支給した。しかし、長時間、冷えから身を守るため筋肉を硬直させたためだろう、帰村後には肩のこりを覚える人も多かった。

体操競技の女子（男子は次の日競技のため免除）も参加していたので風邪が心配されたが、幸いドクターの予想「今夜あたり医務室が込むかな」に協力せずに済んだ。

日本選手団は行進の際、大きなハンカチーフほどの韓国旗を行進中、終始、振ることを義務づけ敬意を表した。その対応姿勢に「なぜ日本人が韓国旗を…」と主張するグループが財団法人・日本体育協会に車で乗りつけたという事実、国際交流の難しさを思い知らされたのは帰国直後だった。

天候に不運だった今開会式、何とんでも気の毒に思うのは、この日まで長い間、他国の参加人を歓迎しようと努力してきた多くの韓国人に他ならない。

さらに、雨は人間ばかりではなく、鳩にも影響を与えたにちがいない。なぜなら、放たれた鳩は元氣なく飛ぶことを忘れたように芝上で様子をうかがう数も多く、聖火台の縁にも数羽止まっていた。気の毒な事件はこの聖火台上で起こった。最終聖火ランナー（男女）が点火台にあっても鳩は逃げる気配もなく、そのうち1羽が聖火台の中に入り、そのまま点火されたからである。焼鳥にな

ったであろう鳩の冥福を祈らずにはいられない。

1988年、ソウル・オリンピック大会の開会式は、雨にも負けず9月20日に変更なしという。是非、快晴に恵まれ今回のうっ憤を晴らしてもらいたい。

3. 金メダル数

競技種目の数の増加がメダル増に反映するのは当然としても、やはり韓国の強化策が実った大会といえよう。

スポーツ界に復帰した時、「友情第一、勝負第二」と主張した中国も、前回、金メダル数で日本を抜いてから、その姿勢は外交辞令的になったように思う。したがって、あと1個で韓国に肩を並べられ、あと2個で追い抜かれた今大会は、薄氷を踏む思いだったにちがいない。特に、韓国の卓球における金メダル3個（男2、女1）は、中国に大きなショックを与えたことだろう。

一方、日本は基本的に旧態然とした強化策を以て臨んだわけで、前回、金メダル17個、銀メダル19個、銅メダル20個を獲得している朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が、もし参加していたなら、さらにマイナスに作用したことは明らかである。

今大会は日本が韓国に水をあけられたという点で、アジアのスポーツ史上に明記されることになったが、スポーツに関心を持つ政治家の心を真剣に動かすことにでもなれば無意味とはいえない。

4. 採点と判定

宿命とまでいわれる採点競技における採点上のトラブルは、残念ながら体操競技に見られた。それは過度なナショナリズムに負うところが大きである。参加国が少なかった（男女各7か国）ために、義務付けられる帯同審判員の数も少なかった事情

から、地元の審判員を多く採用したという審判員編成上の問題を今後に残しました。

さらに審判員の質、すなわち、アジア連盟に加盟している国の多くは、高レベルの選手を抱えておらず、技をみる眼力不足も指摘される。確かに、採点規則に照合しても不満な採点は認められた。しかし、その不満も味方が失敗したのでは効をなさない。要は誰が、何処からみても「なるほど」といわせる演技を可能にすることであろうし、他国における競技会ではそれが勝つ唯一の道ともいえる。

柔道の8階級における2個の金メダルも、「一本勝ち」だったから誰をも納得させえたのであり、もし、判定に持ち込まれていたなら一抹の不安は残されよう。

5. ドーピング

団体戦直後のドーピングは、時間を要したことで指名された選手はもとより、付き添った役員も苦勞した。もちろん、原因は選手の尿意なし、あ

るいは排尿しても規定量に達しなかったためである。

特に、日本の女子選手（高校生）はドクターが尿促進剤として勧めたビールを少量飲んだだけで気分を悪くもした。

結局、夜10時を過ぎても規定量に達せず、村内の医事部へ移動させ様子をみることになった。しかし、すでに組織側からの配車は終了、移動は救急車に頼ったが、選手が自分の部屋に戻ったのは真夜中だった。

勝つことの異常な執着心から、競技種目によっては禁じられた薬物使用の事実はこれまで確認されてはいる。しかし、今回、違反までして勝とうなど毛頭ない女子選手が苦勞している姿、そして翌日への影響を考えると、検査方法について再検討が必要な気がしてならない。

（この文章は日本加除出版株式会社創立45周年記念「随想」に掲載されたものです）

7年ぶり6度目の全日本インカレ優勝成る

体操部監督 早田卓次

前監督遠藤幸雄先生から監督を受け継いで4年目に念願の男子団体優勝を達成することができた。男子コーチ梶山広司君の指導のもとに、昼夜の厳しいトレーニングと全寮制で培ったチームワークの勝利であろうと自負している。

このたびのメンバーは、石川（4年）、水島、小比類巻、山本（3年）、長谷川、小林（2年）である。石川主将はチームの原動力となりその責務を果たしてくれたし、3年生の水島は期待通り活躍して個人のタイトルをも取ってくれた。

6人のサムライは、日本大学体操部として頼りになる男たちであり、実によく働いてくれた。そ

れに大会が行われた上越の地に全部員が集合し、体操部一丸となって応援席から声援を送り、60余の全部員が優勝の喜びの瞬間を味わえたことが何よりも収穫であった。

また、OBも暑い中、稲橋会長をはじめとして東西から多数の先輩が会場に姿をみせてご支援頂いたことは誠にもって心強いかぎりであった。監督4年目にして優勝を体験できたことは、コーチ、選手、部員に対し感謝の気持ちでいっぱいである。

まともりがあって部に貢献してくれた4年生はすでに社会人1年生として、各々活躍している様子を知らされる。また、新入部員は、佐藤寿治

(市立船橋)ら優秀な選手男子10名、女子7名を迎えて昼夜練習に専念している。

今年に入りソビエトでは、「ゆか」で後方かかえ込み3回宙返りを発表し、体操仲間を啞然とさせているが、我体操部は学生チャンピオンとして

7度目のタイトルに向けてより一層充実を図りたい考えである。

桜樹会の会員のみなさまには、一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

(1987. 5. 27記)

新 人 類 に 期 待 す る

総務 菊 地 君 男

会報は昭和58年12月発刊の20号以来久しくとだえている。その間、昭和60年12月に創立25周年記念誌が刊行されてはいるが、その時々々の新鮮な話題は、やはり会報によって伝えられることが望ましいわけで、これ偏に事務局を預かる当方の怠慢であると深く反省している。実のところ、記念誌発刊以後、何となく気抜けしてしまって、会報発刊の意欲が薄れてしまったのである。それと、この仕事を長いことやっているのでどうしてもマンネリ化は避けられず、毎回同じような内容になってしまうことも気になっていた。できるだけ新鮮味を出そうと努力したつもりだが、なかなか納得のいくものはできなかった。

これは会報のことばかりではなく事務局としての機能全体にイえることであって、この2年ほど冬眠と称してあまり目立った活動はしていない。個人的な都合で会の活動が停滞したことには責任を痛感しているが、予算の執行などについては例年通り滞ってはいないので、何卒お許し願いたいと思っている。

さて、このようなマンネリ化から脱皮するためにはどうすればいいのか。それには、どうしても若い人の新しい感覚が必要だと思われるのである。したがって、ことあるごとに誰かこの仕事を引き継いでくれないだろうかと思え続けてきたのであるが、奇特な暇人はいないとみえて、引き受け

てくれる人が現れず今に至っている。

しかし、どうやら適任者がみつかった。第25期の遠藤幸一君がその人である。彼は現在、部のコーチとして活躍中だが、その合間をぬって成績の整理あるいはビデオの撮影、編集などに特異な才能を発揮している。記念誌発刊の折にも、新しい感覚で大いに力となってくれた。最近、協会の総務という責を担って、海外にも出かける多忙な毎日ではあるが、彼の得がたい才能を是非桜樹会のためにも発揮してほしいと口説き落としたのである。今回、初仕事として会報21号の編集をお任せした。彼はいわゆる新人類に属するのであろう。したがって、旧人類たる私とは違った感覚で仕事をしてくれるのではないかと期待している。かといって、何もかも任せてしまっただけでは、大学院の学生でもある彼には負担が多すぎるであろうから、従来やってきたような事務的なことは続けてやっていくつもりである。しかしいずれこの仕事も若い人がやってくれることを願いたい。

稲橋会長も多忙を極める人だが、会長はやはりこの人をおいていない。記念誌のスナップにトランポリンで遊ぶ幼き遠藤君と見守る4年生の稲橋会長の姿がある。桜樹会の年輪を感じさせるシーンだが、親子ほどの違いのあるコンビでうまくやってほしいものである。

昭和59年度 決算報告

菊地君男
鶴見興人

(収支決算書) 自：昭和59年4月1日 至：昭和60年3月31日

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額
収 入 総 額	1,342,490	1,246,400	△ 96,090
支 出 総 額	1,342,490	475,115	867,375
差 引 (次年度繰越金)	0	771,285	771,285

(収入明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
前年度繰越金	692,490	692,490	0	
会 費	650,000	527,000	△123,000	134名分
雑 収 入	0	26,910	26,910	懇親会余剰金 23,170 預金利息 3,740
寄 付 金	0	0	0	
合 計	1,342,490	1,246,400	△ 96,090	

(支出明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
事 業 費	600,000	181,500	418,500	会報臨時号印刷代 31,500 社会人大会選手派遣 150,000
補 助 費	200,000	110,000	90,000	インターハイ視察補助 50,000 インターハイ懇親会補助 30,000 インカレ補助 30,000
会 議 費	50,000	39,930	10,070	幹事会 (3回) 軽食代 37,930 幹事会室代 2,000
通 信 ・ 印 刷 費	200,000	104,650	95,350	切手, はがき代 23,390 会報送料 (407通) 48,840 合本送料 800 25周年通知印刷送料 31,620
事 務 費	30,000	2,025	27,975	定型封筒代
雑 費	10,000	5,810	4,190	口座手数料
予 備 費	252,490	31,200	221,290	会報合本製本代 11,200 せん別 20,000
合 計	1,342,490	475,115	867,375	

昭和62年 6月30日

会 員 各 位

日本大学桜樹会

会 長 稲橋 恒行

体操部に対する補助費カンパについて

会員の皆様には時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、会員名簿及び会報第21号をお送りする運びとなりました。

会員名簿は隔年発行の年にあたり、会報もどうにか発刊にこぎつけることができましたので同時に発送することと致しました。ここに到るまでには多くの方々の協力があったわけで、関係各位に心から御礼申し上げる次第です。

ところで、現在、体操部員は来るべきインカレに備えて猛練習に明け暮れる毎日を過ごしているわけでありますが、創立25周年を経た桜樹会としましても、後輩の頑張りに対してなにがしかの力添えをしていかなければならないと思います。

会報でご案内のように、今年のインカレおよび全日本の会場は、インカレが北九州の小倉、全日本が京都といずれも遠隔の地で開催されます。選手の遠征補助ばかりではなく、派遣審判員の経費も部が負担しなければなりませんので選手の負担も相当厳しい状況にあります。

そこで、標記にもありますように、会員の方々からいくらかでもカンパして頂き、選手の負担を軽減できればと考えました。諸般の事情で幹事会も開催できず、会長、副会長、総務での話し合いで実行に移すことにいたしました。何卒趣旨をご理解のうえご協力のほどお願い申し上げます。

尚、カンパは一口 1,000円とし、名簿に綴じ込んである振り替え用紙裏面にカンパ何口と明記のうえ会費と一緒に送金して頂ければ幸いに存じます。

昭和62年度 全日本学生体操競技選手権大会

期 日 8月6日(木)～9日(日)

会 場 北九州市立総合体育館 北九州市八幡東区八王寺町4-1

日 程 8/6 9:40～開会式、10:30～1部校規定演技

8/7 9:50～2部校規定演技

8/8 9:50～1部校自由演技、団体表彰式

8/9 10:20～2部校自由演技、16:00～1部校個人兼種目別、閉会式

宿 舎 7/5現在未定

選 手

<男子>

4年	水島 宏一	関西高
	小比類卷英夫	弘前実高
	山本新吾郎	静岡学園高
3年	小林 隆	相工大附高
	知念 孝	興南高
	長谷川 靖	日大藤沢高
	平井 良幸	関西高
2年	田村 真	中京高
	井本 吉彦	洛南高
1年	佐藤 寿治	市立船橋高

<女子>

4年	平田 正美	米子商高
	松澤小百合	佐藤学園高
3年	辻本 容子	就実高
	牧野さだ子	西遠女子学園高
2年	長澤 郁子	習志野高
	中野 久美	相工大附高
	石山佳奈子	新潟中央高
1年	西村 美也	奈良育英高
	増田 睦美	三原高

昭和59年度 会費納入状況

総額 527,000円

No	月日	氏名	金額	No	月日	氏名	金額
1	59.4.1	猪野木 明美	2,000	33	12.23	松本 俊一	3,000
2	"	遠藤 幸一	2,000	34	12.25	鈴木 聖子	4,000
3	"	小野田 博之	2,000	35	"	吉田 義則	5,000
4	"	桑原 透	2,000	36	"	渡辺 英明	2,000
5	"	佐藤 久美子	2,000	37	"	小坂井 一弘	2,000
6	"	田嶋 しのぶ	2,000	38	"	小玉 幸子	3,000
7	"	田中 千春	2,000	39	"	田中 章二	4,000
8	"	長沢 和子	2,000	40	12.26	吉村 博	4,000
9	"	樫 一幸	2,000	41	"	春山 文子	5,000
10	"	加藤 安則	2,000	42	"	志村 久子	3,000
11	"	佐々木 藤雄	2,000	43	"	小島 真理	2,000
12	"	堀 正道	2,000	44	"	高橋 知子	3,000
13	"	渡辺 光昭	2,000	45	"	島崎 康行	4,000
14	4.7	富松 由三子	3,000	46	"	白土 弘士	3,000
15	5.4	坪井 しのぶ	3,000	47	"	鈴木 光雄	4,000
16	5.8	伊藤 寛美	10,000	48	"	正木 恭子	3,000
17	5.15	岩田 惇	5,000	49	"	中村 秀也	2,000
18	5.21	国井 信行	4,000	50	"	山田 隆士	4,000
19	5.23	桃井 明男	4,000	51	"	石井 弘子	3,000
20	5.24	千野 良一	8,000	52	"	室屋 武子	3,000
21	6.23	木下 咲夫	5,000	53	"	佐々木 巖	4,000
22	7.17	岡本 公子	10,000	54	"	椎名 厚	3,000
23	7.27	高橋 博美	4,000	55	"	船木 政明	5,000
24	8.7	大友 栄紀	4,000	56	"	上野 剛	5,000
25	"	木村 多喜	5,000	57	"	小柴 守夫	5,000
26	11.7	今村 悟	5,000	58	"	伊東 恭一	4,000
27	11.8	望月 敏正	4,000	59	12.27	近藤 明	5,000
28	11.22	小栗 郁郎	10,000	60	"	三本松 純子	10,000
29	12.1	二岡 真美子	10,000	61	"	吉田 清一	2,000
30	12.3	松田 洋	3,000	62	"	菅野 秀俊	4,000
31		欠 番		63	12.28	平田 芳和	3,000
32	12.23	矢野 竜治	4,000	64	"	森田 博	4,000

No	月日	氏名	金額	No	月日	氏名	金額
65	59.12.28	宮本 撰子	2,000	101	1.18	森元 潤一	2,000
66	"	安藤 久実	3,000	102	"	印宮 亨	4,000
67	12.29	前田 千賀志	5,000	103	"	岡本 みどり	4,000
68	"	宇津 豊	4,000	104	1.20	高橋 三千子	3,000
69	" 30	藤原 和子	3,000	105	"	境 保則	3,000
70	"	舟山 忠広	4,000	106	"	赤井 和子	5,000
71	"	古田 真由美	3,000	107	1.23	森山 理	4,000
72	"	中村 秀二	4,000	108	"	慶田盛 定	3,000
73	12.30	栗原 良孝	3,000	109	1.25	茂木 こずえ	3,000
74	"	池崎 万里子	2,000	110	"	金子 正史	5,000
75	12.31	蔽野 睦明	3,000	111	1.26	岡崎 恭児	3,000
76	"	水島 克己	2,000	112	1.27	杉沼 誠	3,000
77	"	松山 禎一	3,000	113	1.29	塚越 美和子	3,000
78	"	山口 次男	4,000	114	1.30	片山 雅道	2,000
79	60.1.1	城本 真理子	2,000	115	2.1	峯田 孝幸	2,000
80	"	森 俊子	3,000	116	"	峯田 知加子	2,000
81	"	朝倉 康雄	4,000	117	2.3	菅原 明雄	4,000
82	"	波多野 伸	5,000	118	2.8	志賀 正昌	15,000
83	"	西原 由美子	4,000	119	"	吉川 輝	10,000
84	"	中島 孝	4,000	120	"	林 富久寿	4,000
85	1.2	鶴見 興人	5,000	121	2.16	谷田部 光則	8,000
86	1.5	山本 富士子	3,000	122	2.17	錦井 利臣	3,000
87	"	櫛谷 宗敬	4,000	123	2.19	平野 文世	5,000
88	1.6	久保田 一行	3,000	124	2.24	藤谷 弘一	5,000
89	"	柏谷 錦一	2,000	125	2.27	岡島 耕一	2,000
90	"	高見 等	2,000	126	2.28	朝倉 徳雄	5,000
91	1.8	三田 久	5,000	127	3.2	門脇 文	3,000
92	1.9	山本 好隆	4,000	128	3.3	早瀬 幸博	2,000
93	1.12	五十嵐 久人	8,000	129	3.8	安藤 泰行	5,000
94	1.13	平川 文雄	5,000	130	3.15	保坂 弘一	5,000
95	1.15	今井 久美子	3,000	131	3.20	中島 元	5,000
96	1.17	田野 哲	5,000	132	"	岩井 高志	2,000
97	"	松下 悦子	3,000	133	"	米田 賢一	5,000
98	1.19	箱根 修	10,000	134	3.31	菊地 君男	5,000
99	"	工藤 昌二	5,000				
100	"	遠藤 幸一	2,000				

昭和60年度 決算報告

菊 地 君 男
鶴 見 興 人

(収支決算書) 自：昭和60年4月1日 至：昭和61年3月31日

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額
収 入 総 額	2,871,285	2,345,906	△525,379
支 出 総 額	2,871,285	1,968,350	902,935
差 引 (次年度繰越金)	0	377,556	377,556

(収入明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
前年度繰越金	771,285	771,285	0	
会 費	650,000	655,000	5,000	157名分
雑 収 入	0	3,621	3,621	
寄 付 金	0	0	0	
記 念 誌 代	1,450,000	916,000	△534,000	会員231冊, 体操部89冊
合 計	2,871,285	2,345,906	△525,379	

(支出明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
事 業 費	1,500,000	1,549,800	△ 49,800	25周年記念誌代 1,230,000 会員名簿印刷代 199,800 社会人大会補助 120,000
補 助 費	200,000	0	200,000	
会 議 費	50,000	39,990	10,010	
通 信 費	150,000	172,240	△ 22,240	会員名簿送料 67,830 記念誌送料(料金別納) 57,000 記念誌送料(切手) 22,500 切手, はがき等 24,910
事 務 費	30,000	62,660	△ 32,660	記念誌小包用バック 32,000 ワープロ用バブルカセット 30,000 封筒等 660
印 刷 費	50,000	4,500	45,500	
雑 費	10,000	9,960	40	口座手数料
予 備 費	881,285	129,200	752,085	
合 計	2,871,285	1,968,350	902,935	

昭和60年度 会費納入状況

総額 655,000 円

No.	月日	氏名	金額	No.	月日	氏名	金額
1	60.4.1	川畑 龍雄	2,000	40	6.2	中村 秀也	3,000
2	"	山中 百合子	2,000	41	6.5	田嶋 しのぶ	2,000
3	"	大塚 宏	2,000	42	"	鴨下 哲夫	4,000
4	"	桜井 一男	2,000	43	"	今井 久美子	3,000
5	"	安里 順一	2,000	44	6.6	松本 俊一	3,000
6	"	岩崎 朗子	2,000	45	"	山田 隆士	5,000
7	"	大畑 洋子	2,000	46	6.7	小松 武雄	10,000
8	"	岡崎 格子	2,000	47	"	井上 潤一	10,000
9	"	斉藤 有里	2,000	48	"	森元 潤一	2,000
10	"	千代 恭司	2,000	49	"	垂石 守	3,000
11	"	藤田 昌代	2,000	50	6.8	城本 真理子	3,000
12	4.2	高田 信興	10,000	51	"	小柴 守夫	5,000
13	"	小栗 郁郎	5,000	52	"	渡辺 英明	2,000
14	"	後藤 史朗	5,000	53	"	渡部 英宣	5,000
15	4.3	中村 栄喜	4,000	54	"	杉沼 誠子	3,000
16	4.6	田中 久美子	3,000	55	"	東条 恭子	3,000
17	4.10	里中 昌子	8,000	56	6.11	松田 洋恵	3,000
18	4.16	菅田 幸子	2,000	57	"	佐藤 久恵	4,000
19	4.18	清水 克彦	2,000	58	6.12	田中 章二	4,000
20	4.24	桃井 明男	4,000	59	6.13	木村 多喜	5,000
21	5.18	早瀬 幸博	2,000	60	6.14	後閑 文昌	7,000
22		小野田 博之	2,000	61	"	阿部 稔	5,000
23		早田 卓次	10,000	62	"	飯島 好美	10,000
24		津村 二郎	5,000	63	6.15	松本 好恭	5,000
25		外山 宜男	4,000	64	"	椎名 昇	5,000
26	5.24	浅田 泰男	5,000	65	6.18	堀田 敏明	5,000
27	5.29	橋口 泰武	10,000	66	6.19	原 弘吉	5,000
28	5.30	金子 正史	5,000	67	"	林 昌幸	7,000
29		志村 久子	4,000	68	"	朝倉 康雄	4,000
30	5.31	菅野 秀俊	4,000	69	"	山脇 恭二	3,000
31		近藤 明	5,000	70	6.22	仲西 盛光	10,000
32		春山 文子	5,000	71	"	相原 和明	10,000
33	6.1	金子 洋平	5,000	72	"	早川 尚夫	5,000
34		富松 由三子	3,000	73	6.23	志賀 正昌	5,000
35		中西 富士子	3,000	74	"	船木 政明	5,000
36		吉田 清一	2,000	75	"	安藤 泰行	5,000
37		平野 文世	5,000	76	6.25	境 保則	3,000
38		田野 哲	5,000	77	"	安藤 久実	3,000
39	6.2	塚田 和茂	4,000	78	6.26	安井 利臣	4,000

No.	月日	氏名	金額	No.	月日	氏名	金額
79	60.6.27	金居俊郎	3,000	118	7.12	森山理	4,000
80	6.28	中谷秀明	4,000	119	7.16	西原由美子	4,000
81	6.29	川久保祐司	4,000	120	7.19	吉村博	4,000
82	"	峯田孝幸	2,000	121	"	塚越美和子	3,000
83	"	平田芳和	3,000	122	7.20	門脇隆	4,000
84	"	戸沢滋	4,000	123	7.30	増子俊子	3,000
85	6.30	山崎忠男	4,000	124	8.1	長沢和子	2,000
86	"	木村邦博	10,000	125	8.3	岩井高志	3,000
87	7.2	平川文雄	5,000	126	8.4	松山禎一	3,000
88	"	宇野正信	5,000	127	8.13	山本光子	5,000
89	"	松山もと子	4,000	128	8.21	山崎常雄	3,000
90	"	宮本撰子	2,000	129	8.23	田中康義	3,000
91	"	田島清貴	3,000	130	9.1	山内悟	5,000
92	7.3	岩沢稔	5,000	131	9.1	上野剛	5,000
93	"	岡島耕一	2,000	132	9.4	後藤美代子	3,000
94	"	過足重六子	4,000	133	9.8	森田博	4,000
95	"	山口純子	3,000	134	9.10	小沢富代	4,000
96	7.4	八戸昭	5,000	135	9.27	山崎雅昭	4,000
97	"	加藤真理	3,000	136	"	三宅美雄	5,000
98	"	中村秀二	3,000	137	10.1	中島元	5,000
99	"	真島孝礼	10,000	138	10.13	辻誌朗	4,000
100	"	前田千賀志	5,000	139	10.15	猪野木明美	2,000
101	"	今村悟	5,000	140	10.18	梶山広司	3,000
102	7.5	兔澤無二夫	3,000	141	10.22	辻健一	5,000
103	"	舟山忠広	4,000	142	"	木下咲夫	4,000
104	"	吉田義則	5,000	143	11.1	柏谷錦一	2,000
105	"	中島清	3,000	144	11.7	松田明	5,000
106	"	西田佐久良	5,000	145	"	加藤安則	2,000
107	7.6	水島克己	2,000	146	11.12	橋口幸弘	3,000
108	"	常木正晴	5,000	147	11.16	寛山秀成	3,000
109	"	松尾道子	10,000	148	11.30	岡崎恭児	3,000
110	7.7	小俣里知子	5,000	149	12.19	橋口泰武	5,000
111	"	佐藤勲	5,000	150	12.22	片山みちる	2,000
112	7.9	石井弘子	3,000	151	12.29	原田昭代	3,000
113	"	高波司雄	5,000	152	12.31	渡辺美弥子	3,000
114	"	松岡範孝	4,000	153	"	高橋博美	3,000
115	"	青木文次	4,000	154	61.1.2	茂木こずえ	3,000
116	7.10	伊東恭一	4,000	155	1.20	朝倉徳雄	5,000
117	7.11	杉田智加子	3,000	156	2.6	吉川輝	10,000

昭和61年度 決算報告

菊 地 君 男
鶴 見 興 人

(収入決算書) 自：昭和61年4月1日 至：昭和62年3月31日

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額
収 入 総 額	1,444,556	1,050,800	△393,756
支 出 総 額	1,444,556	538,470	906,086
差 引 (次年度繰越金)	0	512,330	512,330

(収入明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
前年度繰越金	377,556	377,556	0	
会 費	650,000	631,000	△ 19,000	154名分
雑 収 入	0	3,244	3,244	
寄 付 金	0	0	0	
記 念 誌 代	417,000	39,000	△378,000	残139冊のうち13冊分
合 計	1,444,556	1,050,800	△393,756	

(支出明細)

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
事 業 費	150,000	100,000	50,000	社会人大会選手派遣費
補 助 費	200,000	220,000	△ 20,000	体操部補助
会 議 費	50,000	0	50,000	
通 信 費	150,000	44,670	105,330	会費請求通知送料他
事 務 費	30,000	4,940	25,060	バインダー他
印 刷 費	50,000	21,740	28,260	領収書用紙(私製はがき)
雑 費	10,000	7,410	2,590	口座手数料
予 備 費	804,556	139,710	664,846	体操部祝勝会補助
合 計	1,444,556	538,470	906,086	

昭和61年度 会費納入状況

総額 631,000円

No.	月日	氏名	金額	No.	月日	氏名	金額
1	61.4.1	島田利夫	2,000	40	7.9	鶴見興人	5,000
2	"	吉川秀之	2,000	41	"	志賀正昌	10,000
3	"	大野裕二	2,000	42	"	金子洋平	5,000
4	"	菊地信幸	2,000	43	7.10	長沢和子	2,000
5	"	八木宏克	2,000	44	"	小松武雄	5,000
6	"	矢吹辰巳	2,000	45	7.11	岡島耕一	3,000
7	"	伊藤奈美	2,000	46	"	田島清一	3,000
8	"	潘藤奈鏡	2,000	47	"	佐藤之俊	3,000
9	"	天童毅	2,000	48	"	峯田孝幸	2,000
10	4.25	岡本みどり	10,000	49	"	工藤昌二	5,000
11	5.17	正木恭子	3,000	50	"	伊藤寛美	10,000
12	5.25	錦井利臣	5,000	51	"	菅野秀俊	4,000
13	6.26	原弘吉	5,000	52	"	市毛美喜男	4,000
14	7.8	山崎常雄	3,000	53	"	朝倉康雄	1,000
15	"	朝倉康雄	4,000	54	7.12	渡辺光昭	2,000
16	"	木村多喜	5,000	55	"	田中久美子	3,000
17	7.9	桜井一男	2,000	56	"	小玉幸子	4,000
18	"	山田隆士	5,000	57	"	小石悦夫	4,000
19	"	慶田盛定	3,000	58	"	野際撰子	2,000
20	"	城本真理子	3,000	59	7.13	中山幸子	4,000
21	"	楠谷宗敬	5,000	60	"	山脇恭二	3,000
22	"	井上靖	5,000	61	"	千葉本子	5,000
23	"	小柴守夫	5,000	62	"	仲西盛光	10,000
24	"	小吉村博	4,000	63	"	早川尚夫	5,000
25	"	中島元	5,000	64	7.15	三田久	5,000
26	"	田中章二	4,000	65	"	西原由美子	4,000
27	"	森元潤一	2,000	66	"	堀正道	2,000
28	"	田中千春	2,000	67	"	小野田博之	2,000
29	"	遠藤孝之	3,000	68	"	上野剛	5,000
30	"	杉沼誠	3,000	69	"	五十嵐久人	4,000
31	"	阿部稔	5,000	70	"	船木政明	5,000
32	"	望月敏正	5,000	71	"	門脇隆	6,000
33	"	白土弘士	4,000	72	"	松本俊一	3,000
34	"	蔽野睦明	3,000	73	7.16	伊谷正一	5,000
35	"	卷島久	3,000	74	"	島崎康一行	5,000
36	"	伊東恭一	5,000	75	7.17	近藤明	5,000
37	"	酒田隆	3,000	76	"	渡辺英明	2,000
38	"	田嶋しのぶ	2,000	77	"	高見等	3,000
39	"	安藤久美	4,000	78	"	山本好隆	4,000

No	月日	氏名	金額	No	月日	氏名	金額
79	61.7.18	山崎雅昭	4,000	118	8.17	平川文雄	5,000
80	"	吉田清一	3,000	119	8.21	境保則	3,000
81	"	赤井和子	5,000	120	8.22	山崎忠男	5,000
82	"	久保光正	4,000	121	8.23	中村秀二	3,000
83	7.19	千代恭司	2,000	122	8.24	坪井しのぶ	3,000
84	"	後閑文昌	3,000	123	8.27	猪野木明美	2,000
85	"	山崎至	3,000	124	"	米田賢一	5,000
86	"	芳尾明	5,000	125	8.28	舟山忠広	5,000
87	"	千野良	6,000	126	8.31	桃井明男	5,000
88	"	戸沢滋	4,000	127	9.3	田野哲	5,000
89	7.20	鴨下哲夫	5,000	128	9.5	森山理	5,000
90	7.22	伊藤勇	5,000	129	"	加藤真理	3,000
91	"	中谷秀明	4,000	130	"	岡崎恭児	4,000
92	"	寺元良人	4,000	131	9.13	稲橋恒行	10,000
93	7.23	網島路正	5,000	132	"	石井征也	10,000
94	"	茂木こずえ	3,000	133	9.15	菊地君男	10,000
95	"	塚越美和子	3,000	134	9.25	後藤郁代	3,000
96	"	松田洋	3,000	135	"	堀田敏明	5,000
97	7.25	広川潔	5,000	136	"	梶山広司	4,000
98	"	塚田和茂	8,000	137	10.8	椎名昇	4,000
99	7.26	中西富士子	3,000	138	"	水島克己	3,000
100	7.30	宇津豊	5,000	139	10.11	二木喜代美	5,000
101	"	鈴木光雄	5,000	140	10.17	小俣里知子	5,000
102	"	増子俊子	2,000	141	10.25	西坂三枝子	3,000
103	"	吉川輝	10,000	142	11.29	田中康義	3,000
104	7.31	平田芳和	3,000	143	12.4	中村栄喜	4,000
105	8.1	菅田幸子	3,000	144	12.10	松本恭子	5,000
106	"	杉田智加子	3,000	145	12.15	橋口泰武	5,000
107	"	佐藤久恵	4,000	146	12.21	村上吉正	3,000
108	"	平野文世	5,000	147	12.27	安藤泰行	5,000
109	8.2	高波司雄	5,000	148	"	松下悦子	3,000
110	8.3	志村久子	4,000	149	62.1.7	高橋和秀	3,000
111	"	清水克彦	2,000	150	1.13	今村悟	5,000
112	8.7	岡本公子	5,000	151	1.21	佐藤勲	5,000
113	"	安里順一	2,000	152	3.8	富松由三子	6,000
114	8.9	山本俊子	3,000	153	3.13	斉藤敬一	4,000
115	"	石井弘子	3,000	154	3.25	朝倉徳雄	5,000
116	8.14	小坂井一弘	2,000				
117	8.15	片山みちる	2,000				

私の選手時代

女子コーチ 木村多喜

私の入学した頃（昭和34年）文理学部において女子学生は珍しい存在であった。特に、体操部にはこの年に8人もの女子部員が入部したので練習環境はとても華やかになったように思う。このことは毎日練習時間になると男子の一般学生や他の運動部員（特に応援団が多かった）などが体育館にゾロゾロやってくることでわかるような気がする。そんなある日、門脇先生（当時監督）は応援団部室に怒鳴り込んで行った。“体操部の女子にちょっかい出すな”といったようなことだったと思う。その時の門脇先生は真剣だった。親から預かった女子部員ゆえ何か問題を起こしたら申し訳ないということと、練習に身が入らないのではないかという親心からではなかっただろうか。

当時女子部員は、4年生1人（合田恭子、現稲橋夫人）、2年生2人（小川文子、福田竹子）と私たち新人8人（東海林里知子、吉井公恵、稗田房子、寺島安世、小田原威世子、二條智美、刀野順子、渋谷多喜）の計11人しかいなかったが活気にあふれ、のびのびとした中にも張り詰めた雰囲気での練習であった。11人全員が凌ぎをけずり、人より早く練習に入り自分の持ち技を生かすべく努力をし、秘密練習さえした覚えがある。また、正規の練習時間（約2時間）では物足らず、中庭の芝生に平均台や倒立バー、マットを並べて個々の補強を兼ねての練習が毎日毎日飽きることなく繰り返された。

こうした練習の甲斐あって、この年はじめて女子チームが結成され、関東学生選手権に初出場し、未熟ながらも新鮮な演技で日大チームは伝統校日体大、教育大に次いで堂々の3位となり1部校の仲間入りを果たし、8月のインターカレッジにおいても3位入賞、さらに全日本選手権大会においても3位になり、監督、コーチなど関係者と一緒にとびあがって喜んだ記憶がある。しかし、こうした喜びの陰には多くの苦しみ、悲しみが潜んでいるのである。

私は大学に入るにあたって母から「体操を続けるんだったら最後まで弱音を吐かず、トコトンやってみること、人生は茨の道。だから、努力することによって必ず報いられる時がくる。こなかったら、まだまだ努力と忍耐不足と思え！」と諭されたことを肝に銘じ、ただひたすら頑張った。しかし、残念なことに脊髄の病気で日大駿河台病院に入院することになった。主治医の先生から「今後は絶対運動をしてはいけない」と厳重な注意を受けて約2カ月後に退院したものの痛みは抜けず、全く練習ができなかった。したがって上京した最初のお正月は病院で送ることになり、両親は心配の余り上京して来て学校をやめて帰るように勧めたが、私は首を縦に振らず治療に専念した。特に夏休みの2カ月間は首と腰におもりをつけて牽引をした。次第に痛みも和らぎ少しずつの練習に入ることができた。初心にかえり、くる日もくる日

も基本技を中心に練習をした。痛みがとれればしめたもの、遅れた分を取り戻すため朝昼夕問わず時間の許すかぎり練習の虫になった。このように頑張れたのも身近に目標となるオリンピック選手（門脇和子先生、遠藤先生）がおり、その一言一言のアドバイスに必死に耳を傾け、一挙一動に注意して全てを吸収するようにした。

今思えば懐かしいことばかりであるが、大変よい環境、指導者に恵まれていたと思う。監督、コーチの指導に感謝し、注意されたことは理屈抜きにやってみる。とにかくその日のうちにものしようとして努力した。

さて、私は病気が全快したあと順調に練習することができ、昭和37年6月ブラハで開かれた第15回世界選手権大会に参加、この大会をきっかけに主将としての最後のつとめであるインターカレッジで個人優勝、団体2位。第2回日ソ対抗（モスクワ）へも出場できた。このような経験から“努力と忍耐”で自分の将来に可能性を切り開くことができることを学んだ。これが私の学生時代である。

大学卒業後は幸いにも母校日大に残ることができ、学生への指導と自分の夢への実現のためにベストを尽くした。

昭和39年10月、東京オリンピック大会を迎えることになった。体操会場は観客6千名収容できる東京体育館だが、あまりにも体操の人気が高いため、本番の入場券を手に入れることができなかつた人のために公開練習という制度を取り入れ、入場整理券を発行して観客を前に練習することになった。私は体操競技をはじめて以来、オリンピックの桧舞台へ立つことを夢見て努力して来た日々

を振り返り胸踊らせながら本会場練習にのぞんだ。合宿につぐ合宿で鍛えられた我々は、自身満々でこの練習にはいったが、丁度ゆかの倒立前転とびからとびあがり大ジャンプをやった瞬間、右膝関節捻挫というアクシデントにみまわれ退場しなければならなかった。それまでは非常に調子よくとても気分よく試合を待ち望んだ東京大会だったのに……。私は悔しさもさることながら、今まで指導して下さった方々に申し訳なさでいっぱいだった。今までやってきた集大成としてのオリンピック出場の夢が、これまでやってきた厳しい練習が一瞬の怪我のために脆くも崩れさり、今後の進むべき道を真剣に考えた。そしてもう一度挑戦することを決心した。そのためには今まで以上に自分に厳しいトレーニングをすること、一つ一つの競技会を大切にすることを心掛けることにした。

昭和41年ハンガリーの首都ブタペストのユニバーシアード大会（日本女子初参加、個人5位入賞）同年第15回ドルトムント世界選手権大会（個人9位、段違い平行棒6位）。また、第20回全日本選手権大会個人優勝、昭和40、41、42年のNHK杯3連勝など私の人生で忘れることのできない思い出を数多く残すことができた。

前述のごとく私は、東京オリンピック大会開始直前まで絶好調だったが一瞬の怪我のためドン底にたたき落とされたわけである。しかし、深い決意と高い目標を立て、つまり早く怪我を直すこと、以後絶対怪我をしないトレーニングをすることを誓って再起を図り、自分の生涯における選手生活最高の成績を残すことができたのである。

沖縄国体を目前にして

13期 椎名 昇

“輝く太陽，広がる友情”のスローガンのもと，第42回・海邦国体は全国一巡の最後として沖縄で開催されることは皆様もすでにご存じのことと思います。

また今大会は，復帰15年目とかで，その意気込みは他県とちょっと違ったムードのようにも思います。ここ4，5年間の沖縄の発展には大変目を見張るものがあります。

私は今年で沖縄在住12年目になりました。初めてきたその当時は丁度，海洋博の年で，今とは違った独特の「復興」にかけて懸命に努力している雰囲気のみなぎっていましたが，今回の国民行事に賭ける情熱にはまた素晴らしいものがあります。

沖縄に関する情報は，皆様もよくご存じのことと思いますので省略させていただきますが，体操競技においては，本県の代表選手として1昨年卒業した桜樹会26期の安里順一，日大4年生の佐久本愛子，日大3年生の知念孝，そして成年男子監督の私を含めて4名が日大関係者として参加することを報告させていただきます。

私は地元の団体として国体に参加するのもこれで3回目となります。（放浪癖のせいかな？）最初は秋田国体（これは小学校6年生の時に集団演技をした），2回目は千葉国体（地元選手として）そして今回の沖縄国体です。こうなってみるとどこが自分の地元なのかわからなくなってくるようですが，住んでいるところがきれいに新しくなっ

ていくのは何度見ても気持ちのよいものです。特に，沖縄という地理的に離れ島は，なかなか選手も集らず，どうしても地元出身者だけで構成するので，「勝つ」という意識を捨てた本来スポーツが求めているそのものの大会になるよう頑張っていきたいと思っています。

皆様もこれを機会に，是非沖縄までいらっしゃってはどうでしょう。ただ期間中は宿泊施設の不足とやらで観光客の旅行は遠慮してもらいたいという県観光連盟から通達がありました。選手，監督の方はムーンビーチというリゾートホテルに宿泊することになっていますが，家族共に参加されたい方は直接ホテルに交渉した方が早いと思います。もちろん10月はまだまだ暑く，水泳も十分楽



しめます。

また、ホテルの向かいには沖縄国際ゴルフ場があり、4～5時間で十分回れますのでその方も期待できると思います。そしてもちろん桜樹会開催の予定もしていますので楽しみにして下さい。

い。

最後に、1度は日本最大のリゾート地沖縄にこられるよう念願し、皆様方に会える日を楽しみしながら終らせて頂きます。いい所ですよ！

1種審判員講習会（男子）報告

25期 遠藤幸一

男子1種公認審判員認定試験が3月28日、29日の2日間にわたり、日本体育大学にて開催されました。受験した桜樹会会員4名、中谷秀明(13期)、中村栄喜(13期)、外山宜男(14期)、遠藤幸一(25期)は優秀な成績で全員合格しました。今後とも多くの桜樹会員がこの試験に挑戦し、日本体操界のために御尽力されることを期待します。なお、今回の試験内容の概要を付記しましたので、お役に立てれば幸いです。

男子1種公認審判員認定試験内容(昭和62年)

3月28日 審判講習会

3月29日 実技採点試験、口述筆記試験

〈実技採点試験〉

- グループごとに分れるが、1選手の演技を受験者全員が同時に採点試験する。
- 1種目5演技を採点。(1番目の演技は練習採点。2番目の演技から採点用紙に記入)
- 2、3番目の演技は競技I bで、4、5番目の演技は競技IIと仮定して採点する。
- 演技終了してから採点用紙回収までの時間は2番目60秒、3番目50秒、4、5番目40秒。

- 採点種目はゆか、つり輪、平行棒、鉄棒の4種目。
- 採点用紙(下に示すようにBの技数、C、Dを合せた技数、得点を解答する)

	ゆか	つり輪		
	平行棒	鉄棒		
試技者	1	2	3	4
班				受験番号
B の数				
C + D の数				
点数				

〈口述筆記試験〉

- 受験番号順に並ぶ。
 - 全50問
- 問題例)
- 競技IIに要求されている難度を書いて下さい。
 - 倒立で腕がまがっている場合の減点を書いて下さい。
 - ゆかの特別要求を書いて下さい。
 - 倒立で6歩歩いた時の減点を書いて下さい。
 - あん馬の下向き転向の難度を書いて下さい。



日本大学体操部，今

男子体操部練習内容と環境

男子主将 水島宏一

現在の練習状況は、試技会で選ばれた強化班とそれ以外の班に分れてローテーションをしています。内容は梶山コーチが個人個人に与えた課題を中心に、それを1つ1つ消化していく形式をとっています。また、昨年暮れから今までのウォーミング・アップにソ連式のものを導入するなど、世界のトップに立つソ連の練習などを研究してよいものがあればそれを吸収していこうとしています。

練習環境は、器具もかなりよくなり、特に今年度に新しく購入したゆかフロアのおかげで非常に練習がはかどるようになりました。しかし、1つ欲をいえば、ゆか、跳馬のピットが欲しいところです。

今年度の抱負は昨年以上の成績をとることです。レギュラーメンバーも昨年とほとんど変わっていないという点から団体、個人はもちろん種目別にもよい成績が残せるように頑張ります。特に、日本のメイン大会である全日本選手権大会（京都）では昨年の団体3位以上の成績を収めたいと思っています。

以上今年度も部員一丸となって頑張りますのでよろしくご支援のほどお願いします。

男子体操部生活内容と環境

男子総務 加藤嘉明

現在、男子体操部員は43名のうち41名が八幡山の合宿所で生活しており、2名がそれぞれ自宅とアパートで生活しています。ここ数年、毎年10名前後の部員が入部しているため合宿所のベッドもいっぱいになりつつあります。合宿所へは全員が入寮できるわけですが、以前の先輩たちが経験していたという合宿所へ入るために試技会をやるような時代もくるかもしれません。

生活内容は起床が7時30分、すぐにザリを行い、朝食後は各人の行動に移ります。授業が今年度から30分遅れて始業されるようになったため、練習は4時20分から7時20分まで行うようになりました。そして夕食を8時、消燈を10時30分としています。合宿所内の掃除をはじめ、食事の用意などは今まで通り1年生がやっています。

昨年冬から今年の春にかけて、洗濯機2台、ストーブ1台、食堂用大型冷蔵庫1台を購入し、合宿所内の環境の整備を行い、皆それらを有効に利用しています。ただ、2年前から電気量節約としてテレビが食堂とミーティングルームに1台ずつとなったため、各自のベッドで音楽を聞きながら本（漫画が多いですが）を読むという者が多くなりました。問題といえば、相変わらずゴキブリが多いということと、部員が多くなったと同時に通

学に使っている自転車が増えたため、その置場の整理に困っていることです。

以上が現在の男子体操部の生活環境の概要ですが、今年も昨年に引き続き東日本インカレ、全日本インカレ優勝をはじめ、新人戦や全日本選手権にも優勝できるように、私自身、体操部総務として少しでも役に立てればと思っています。

女子体操部練習内容と環境

女子主将 平田正美

現在、女子部員は総務1名、学生コーチ3名、選手19名の合計23名が木村先生、遠藤コーチのもとで毎日練習に励んでいます。

私たちの練習は朝の起床とともに行うザリから始まり、昼休みの20分間、授業終了後の3時間行っています。環境も特に今年度購入したゆかフロアの影響が大きく、これも先生方や先輩方の素晴らしい伝統と協力のお陰だと部員一同心から喜んでいます。

部員の技術面は昨年に比べて全体的にレベルが高くなったように思いますが、大きな問題が1つ。それは怪我人が多いということです。現在でもまともに全種目トレーニングできる部員がわずかしかないのです。実力はあっても怪我に泣いている部員をみるたびに女子主将として「日大の部員の怪我がなくなるように」という願いがあふれてなりません。

今年の目標は、なんといっても全日本の出場権を得ることです。そのためにはインカレで3位入賞しなくてはなりません。皆さんもご存じのように、女子競技者は年々低年齢化しており、それに準じて大学生の全日本出場権も狭くなっているの

です。そしてこの大学生だけの狭き門の戦いに破れ、残念ながらここ数年間、日大は全日本にチームとして参加していません。今後、厳しい練習で辛く泣きたくなることがあったとしても、試合には笑顔で、そしてうれし涙で泣けるようみんなで力を合わせて頑張っていく決心です。

女子体操部生活内容と環境

女子総務 古野民世

私たち女子体操部は、朝7時に食事当番の「起床です。起きて下さい」の声で眠い目を擦りながら駐車場へ行きザリをします。

それから朝食をとり、講義をうけに日大の門をくぐります。昼休みの軽い練習、4時30分から7時30分までの本練習を終えると8時に夕食、その後は各自10時30分の門限まで自由時間としています。これらはすべて時間厳守で規則正しい生活を送っています。

私たち4年生としては、みんなが住みやすい生活ができるように「和気あいあい」をモットーとした楽しい合宿所にしようと努力しています。実際、部屋割は各学年がそれぞれの部屋に入っていますが、いつもどこかの部屋から笑い声が聞こえてくるという毎日です。

今年度の抱負は、美しい「体線養成」を心掛け、怪我には十分注意し、全日本インカレ3位入賞と国体全員参加を目標として部員一同頑張ることにあります。

こうした目標達成のため、私も学生コーチと力を合わせて頑張りたいと思います。

体操部役員

顧問 浜田 靖 一
 部長 門脇 春 男
 副部長 遠藤 幸 雄
 監督 早田 卓 次
 コーチ 木村 多 喜
 コーチ 梶山 広 司
 コーチ 遠藤 幸 一

 * 日本大学体操部はOB、OGの方々のお越しを心 *
 * よりお待ち申し上げます。お近くにお越しの *
 * 際は是非お立寄り下さい。 *

〈練習場〉

日本大学文理学部第2体育館3F体操場

03-329-1151 (内線 274)

体操部員 67名

〈4年〉

水島 宏 一	関西高	武藤 信 廣	佐賀北高	堤 千 佐子	大分女子高
加藤 嘉 明	銚子商業高	渡 辺 仁	桐朋高	中 野 久 美	相工大附高
上田 秀 一	土浦日大高	長谷川 靖	日大藤沢高	石 山 佳奈子	新潟中央高
名倉 靖 之	日大三島高	松 原 良 和	日大豊山高	田 澤 千 晶	鶴岡北高
小比類卷 英夫	弘前実業高	古 川 堅	日大山形高	相 沢 由美子	土浦日大高

関口 和 人	洛南高	杉 江 智 哉	洛南高	佐 藤 寿 治	市立船橋高
中根 均	日大豊山高	辻 本 容 子	就実高	石 井 宏 樹	太田工業高
山本 新吾郎	静岡学園高	牧 野 さだ子	西遠女子高	遠 藤 慶	保善高
河西 裕	長野中央高	近 藤 修 子	聖愛高	徳 江 和 則	日大藤沢高

佐藤 善 幸	日大山形高	田 村 真	中京高	大 塚 孝 幸	能代高
高橋 良 明	土浦日大高	佐 藤 徹	日大豊山高	高 内 浩 志	土浦日大高
平田 正 美	米子商業高	都 築 正 一	日大山形高	藤 原 由 文	洛南高

古野 民 世	土浦日大高	金 野 東	能代高	前 田 訓 志	調布北高
田中 知 恵	二階堂高	林 洋 介	鳥取東高	喜多川 和 也	日大豊山高
浮田 聖 子	東海大四高	井 本 吉 彦	洛南高	高 井 一 成	和歌山北高

佐久本 愛 子	興南高	川 口 雅 志	土浦日大高	岡 美 奈	八千代高
松澤 小百合	佐藤学園高	助 信 昌 俊	崇徳高	只 友 直 美	夙川学院高
小林 隆	相工大附高	中 山 孝 之	旭川大学高	小 林 美 穂	光華高

笹岡 康 徳	日大明誠高	藤 井 千 法	飾磨高	野 平 悦 子	佼成学園高
三川 敦 司	飾磨高	江 川 広 昌	日大明誠高	西 村 美 也	奈良育英高
知念 孝	興南高	長 澤 郁 子	習志野高	増 田 睦 美	三原高
平井 良 幸	関西高	松 本 ますみ	荏田高	山 口 光 代	高崎女子高
		井 上 千 代	誠心高		

昭和62年度日本大学体操部・日本体操協会予定表

月	日	行 事	場 所	備 考
3	7～13	春期合宿	土浦	
	25	卒業式	武道館	
	28～4/4	モスクワ・リガ	ソ連	
4	8	入学式	武道館	
5	3	ユニバーシアード代表決定競技会	代々木第1	
	4～5	スポーツフェア	代々木第1	
	11～12	東日本インカレ予選会	*	1部校は除く
	*	西日本インカレ	*	
	30～31	東日本インカレ	茨城	笠松運動公園
6	6～7	男子世界選手権2次予選	神奈川	大和市
	27～28	女子世界選手権2次予選	北区滝の川	
7	9～12	ユニバーシアード	ユーゴ	ザグレブ
	25～26	女子世界選手権最終予選	代々木第2	
8	1～4	インターハイ	小樽	
	5～9	全日本インカレ	北九州市	
	11～15	全日本ジュニア	横浜	
	20～21	全中大会	愛知	
	22～23	男子世界選手権最終予選	代々木第2	
	29～9/1	国際ジュニア競技会	大阪, 山梨	
	9	12～13	社会人大会	長野
26～27		高校選抜大会	大和市	
10	*	関東新人戦	*	
	18～25	世界選手権大会	オランダ	ロッテルダム
	25～30	国民体育大会	沖縄	
11	6～8	全日本選手権大会	京都	
	21～22	中日カップ	名古屋	
	26	国際選抜大会	東京	
	29～12/16	大学生ヨーロッパ強化ツアー		
12	29～1/13	高校生強化海外ツアー		
2	*	送別会	*	
	*	体育学科入試	*	
3	*	アメリカンカップ	*	

*印 3/8 現在未定

競 技 会 成 績

ユニバーシアード日本代表最終選考会：代々木第1体育館

1987. 5. 3

☆印 代表選手

〈男子〉			ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
☆1位	加藤 裕之	大和銀行	9.30	9.40	9.30	9.40	9.40	9.05	55.85
☆2位	小西 裕之	紀陽銀行	9.00	9.40	9.20	9.15	9.55	9.15	55.45
☆3位	相原 誠	日本体育大学	9.40	9.00	9.15	9.00	9.30	9.40	55.25
☆4位	水島 宏一	日本大学4年	9.40	9.05	9.15	9.25	8.90	9.40	55.15
☆4位	米井 俊則	大和銀行	9.15	9.10	9.15	9.05	9.30	9.40	55.15
6位	山田 隆弘	大和銀行	9.20	9.20	9.20	9.00	9.10	9.35	55.05
9位	島田 利夫	大和銀行(27期)	8.75	8.40	9.50	9.20	9.30	8.85	54.00
13位	長谷川 靖	日本大学3年	9.50	9.05	8.90	9.20	7.75	8.70	53.10
14位	小比類巻英夫	日本大学4年	8.95	8.70	8.85	8.75	9.35	8.15	52.75

〈女子〉			跳馬	段違い	平均台	ゆか	合計
☆1位	望月のり子	日本女子体育大学	9.400	9.35	9.50	9.30	37.550
☆2位	森尾麻衣子	日本女子体育大学	9.275	8.95	9.15	9.30	36.675
☆3位	川瀬 時枝	筑波大学	9.000	8.55	9.35	8.95	35.850
☆4位	池尻 恭子	筑波大学	8.875	8.40	9.35	9.10	35.725
☆4位	澤井 美穂	東京女子体育大学	8.875	9.05	9.35	8.45	35.725
6位	中村 静佳	日本体育大学	8.950	8.65	8.65	9.25	35.500
13位	長澤 郁子	日本大学2年	8.350	7.95	7.45	7.75	31.500
16位	西村 美也	日本大学1年	8.175	7.10	8.05	7.65	30.975
26位	松澤小百合	日本大学4年	8.650	7.70	6.95	キケン	23.300

国際スポーツフェア（団体兼個人戦）：代々木第1体育館

1987. 5. 4

★印 団体代表選手

		ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計	順位
★	平田倫敏 大和銀行(21期)	9.50	9.40	9.30	9.45	9.40	9.70	56.75	4
★	峯田孝幸 大和銀行(23期)	9.30	9.60	9.30	9.30	9.45	9.55	56.50	6
★	近藤重晃 大和銀行	9.60	9.50	9.45	9.55	9.60	9.45	57.15	1
★	岡部洋明 紀陽銀行	5.00		— キケン —				5.00	—
	日本 ベスト3	28.40	28.50	28.05	28.30	28.45	28.70	170.40	1
	中国 ベスト3	28.15	29.00	28.20	28.20	28.00	28.50	170.05	2
	アメリカ ベスト3	27.65	27.95	28.00	27.20	27.55	28.85	167.20	3
	寺尾直之 河合楽器	9.70	9.45	9.50	9.65	9.35	9.10	56.75	4

国際スポーツフェア（種目別）：代々木第1体育館

1987. 5. 5

峯田：あん馬 9.60（4位），平行棒 9.35（3位），鉄棒 9.60（5位） 平田：鉄棒 9.70（3位）

東日本インカレ：茨城県笠松運動公園

1987.5.30~31

〈男子チーム〉		ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計	順位
水島 宏一	4年	9.00	9.50	9.30	9.35	9.65	9.55	56.35	1
小比類巻 英夫	4年	8.70	8.85	8.95	8.65	9.35	8.65	53.15	
山本 新吾郎	4年	9.20	7.65	8.70	9.25	8.70	9.25	52.75	
小林 隆	3年	8.70	8.40	8.90	8.30	8.60	9.35	52.25	
知念 孝	3年	9.20	9.15	8.95	9.05	9.10	9.25	54.70	4
長谷川 靖	3年	9.20	8.25	9.05	9.25	9.20	9.10	54.05	10
ベスト	5	45.30	44.15	45.15	45.55	46.00	46.50	272.65	2

〈男子個人〉		ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計	順位
平井 良幸	3年	8.80	8.55	8.75	8.75	8.65	8.75	52.25	
田村 真	2年	8.85	8.60	9.10	9.20	9.30	8.95	54.00	11
井本 吉彦	2年	8.55	8.40	8.55	8.80	8.25	9.00	51.55	

〈女子チーム〉		跳馬	段違い	平均台	ゆか	合計	順位
平田 正美	4年	8.30	7.70	7.90	7.90	31.80	28
松澤 小百合	4年	8.00	8.75	8.10	8.25	33.10	20
牧野 さだ子	3年	7.00	8.10	6.85	8.30	30.25	35
辻本 容子	3年	8.20	7.60	7.15	7.20	30.15	36
長澤 郁子	2年	8.40	8.65	9.00	9.00	35.05	13
石山 佳奈子	2年	8.20	7.95	8.10	8.00	32.25	24
ベスト	5	41.10	41.15	40.25	41.45	163.95	5

〈女子個人〉		跳馬	段違い	平均台	ゆか	合計	順位
西村 美也	1年	8.15	7.50	8.40	7.00	31.05	43
増田 睦美	1年	7.25	7.00	7.10	8.00	29.35	30

〈男子団体総合〉

1位	日体大	274.40
2位	日大	272.65
3位	順大	270.30
4位	筑波大	266.30
5位	東海大	256.05
6位	国士館	253.00

〈男子個人総合〉

1位	水島 宏一	日大4年	56.35
2位	相原 誠	日体1年	56.00
3位	中村 仁一	日体3年	55.05
4位	知念 孝	日大3年	54.70
5位	相沢 宗慶	日体4年	54.55
6位	本多 守政	筑波3年	54.40
6位	月岡 泰行	順大4年	54.40

〈女子団体総合〉

1位	日体大	179.00
2位	筑波大	178.05
3位	東女体	173.15
4位	日女体	167.80
5位	日大	163.95
6位	東海大	156.00

〈女子個人総合〉

1位	森尾 麻衣子	日女3年	37.95
1位	望月 のり子	日女2年	37.95
3位	篠原 あゆ美	日体1年	36.65
4位	久保田 美紀	東女3年	36.60
5位	沢井 美穂	東女1年	36.50
5位	中村 静佳	日体1年	36.50

第24回世界選手権大会男子日本代表第2次選考競技会：大和市

1987.6.6～7

順位		※上段：規定, 下段：自由得点							合計	総計
		ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒			
1	水島宏一	9.40	9.50	8.75	9.40	9.55	9.55	56.15		
	日大4年	9.40	9.35	9.30	9.35	9.55	9.60	56.55	112.70	
2	渡辺良夫	9.40	8.85	9.30	9.30	8.65	8.95	54.45		
	茗溪クラブ	9.60	9.40	9.15	9.40	9.25	9.30	56.10	110.55	
3	寺尾直之	9.50	9.15	9.20	9.10	9.45	9.10	55.50		
	河合楽器	9.30	8.45	9.35	9.40	9.55	8.80	54.85	110.35	
4	小西裕之	9.30	9.35	8.55	8.95	9.10	9.20	54.45		
	紀陽銀行	8.55	9.35	9.25	9.20	9.45	9.20	55.00	109.45	
5	本多守政	9.25	8.85	8.80	9.40	8.80	9.30	54.40		
	筑波大3年	9.45	9.15	9.10	9.50	8.50	9.10	54.80	109.20	
5	近藤重晃	9.60	9.35	9.30	9.15	8.80	9.05	55.25		
	大和銀行	9.05	8.60	9.15	9.00	9.15	9.00	53.95	109.20	
7	神田真司	9.20	8.90	9.40	9.05	9.20	9.00	54.75		
	順友クラブ	9.00	8.90	9.40	9.05	9.20	9.00	54.55	109.30	
8	平田倫敏	9.15	8.90	9.15	9.25	9.30	9.35	55.10		
	大和銀行(21期)	9.10	7.95	9.10	9.10	9.25	9.25	53.75	108.85	
9	渡辺光昭	9.40	9.30	9.10	9.35	9.10	9.20	55.45		
	大和銀行(25期)	8.70	8.45	9.20	9.30	9.45	8.15	53.25	108.70	
10	早瀬幸博	9.15	8.95	8.90	9.25	9.35	9.35	54.95		
	河合楽器(23期)	8.70	8.90	9.15	8.90	8.85	9.00	53.50	108.45	
15	峯田孝幸	9.15	8.90	8.80	9.30	9.15	9.30	54.60		
	大和銀行(23期)	9.20	8.30	8.90	8.80	8.80	9.10	53.10	107.70	
<hr/>										
19	島田利夫	9.25	7.90	9.40	8.90	9.45	8.20	53.10		
	大和銀行(27期)	8.60	8.80	9.35	9.10	9.25	9.05	54.15	107.25	
20	長谷川 靖	9.00	8.30	8.90	9.15	8.85	9.00	53.20		
	日大3年	9.25	8.70	8.95	8.60	9.20	9.00	53.70	106.90	
24	千代恭司	9.10	8.70	8.90	9.10	8.30	8.95	53.05		
	大和銀行(26期)	8.85	9.05	9.00	8.95	8.85	8.70	53.40	106.45	
25	知念 孝	9.05	9.00	8.45	8.60	8.90	8.90	52.90		
	日大3年	8.90	9.10	8.90	8.60	8.70	9.30	53.50	106.40	
26	佐藤寿治	8.75	9.05	8.30	9.10	8.35	8.90	52.45		
	日大1年	9.05	8.85	8.70	9.05	8.40	9.25	53.30	105.75	
29	山本新吾郎	9.15	8.85	8.55	9.30	8.10	9.00	52.95		
	日大4年	8.45	7.70	8.75	8.55	9.05	9.20	51.70	104.65	
33	小林 隆	8.75	8.75	8.30	8.85	8.30	7.85	50.80		
	日大3年	8.60	8.00	8.65	8.70	9.00	9.10	52.05	102.85	

編 集 後 記

私ごとになるが、この5月から6月にかけての時期は今までに経験したことのない忙しさであった。それというも、5月下旬にヨーロッパ選手権大会の情報収集のためモスクワへ行き、帰国したと思ったら東日本インカレの審判、続いて世界選手権大会2次予選の審判。その間、報告書やら、VTR編集やら、非常勤講師として働いている岩

倉高校の中間テスト実施およびその評価提出等々頭がパニック状態の中でこの会報の編集。常に考えてから実行していた慎重な私も今度ばかりは実行してから考えようと毎日を過ごした。

しかし、とりあえず初仕事として何とか形づけられた会報をみてホッと一息いれたところである。

(遠藤幸一記)